

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2022年3月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第39号

一人ひとりの声を起点にした連帯を

特定の属性で結びついたコミュニティは、抑圧を受けてきた当事者たちの居場所として、重要な機能を果たしていることは、言うまでもありません。一方で、さまざまな背景をもち、固有の経験をしてきた個人と個人との出会いから生まれる連帯の、なんと力強いことでしょうか。初めて東九条春まつりを訪れたとき、そんな連帯が具現化されているように感じました。そこでは、在日コリアン、障害、貧困、依存症、LGBTQ+など、色々な生きづらさを抱える多様な個人が集い、語り、食や音楽のあふれる豊かな時間を共有していました。

社会には、人種、民族、出身地、ジェンダー、セクシュアリティなどに基づく、ありとあらゆる差別が根強く存在しています。そして、私たち一人ひとりが有しているアイデンティティは、多くの要素で構成され、生きづらさを感じる要素は必ずしも一つではありません。私自身の中にも、レズビアン、女性、難病といった要素が複層的に存在しています。あるときは、愛する人と法的に家族とみなされないことで尊厳を傷つけられます。またあるときは、政治家の女性蔑視発言に心を痛めます。こうした重なり合う生きづらさをもたらす社会の不平等や権力構造に抗おうとするとき、そこにはコミュニティを超えた連帯の形が不可欠です。ネットワークサロンは、そのような場として大切な役割を果たしている



大阪で開催された「レインボーフェスタ! 2019」にブース出展していたカラフルのメンバーと 増原裕子さん(左)

と感じています。

コミュニティを超えて、多様なアイデンティティをもつ人たちが、一人ひとりの経験や声を起点に、互いの語りに耳を澄まし、学び直していく。そうすることで、社会を覆うあらゆる差別に立ち向かうための、しなやかで力強い道具を手にする事ができると信じています。 増原裕子 (LGBTQ+アクティビスト)

2020年3月、カラフルがネットワークサロンの登録団体に仲間入りしました。それ以降、東九条ゴミコロリや東九条春まつり展示、学生からのインタビュー協力など、ネットワークサロン事業に参加してくれています。ネットワークサロン通信第39号は、カラフルの紹介を通じてLGBTQ+のことを知ってほしい、カラフルが掲げるモットー『京都をもっとカラフルに、多様性を認め合うまちへ』繋がるきっかけになってほしいと、リーダーのゆうきさんと企画をし、メンバーが文章を書いてくれました。そして、ゆうきさんと私の共通の友人である増原裕子さんがメッセージを送ってくれました。多くの方に読んでいただけることを願っています。（ネットワークサロン 宇山世理子）

『LGBTQ+』って知ってはる～？

多様性あふれるコミュニティづくりに挑むカラフルが思うこと。



「男の子は男らしく強くないとね」

「女の子は女らしく振る舞わないとね」

ジェンダーに関するなにげない言葉の一つ。

みなさんも一度は耳にしたり、もしくは言われた経験はありませんか？

その「男らしく」「女らしく」ってなんだろうと、その性が持つ「らしさ」のステレオタイプに違和感を感じたこともあったかもしれません。その違和感こそ、「ジェンダーへの関心」の入り口。私たち「カラフル」が現代社会を生きていく上で大切にして欲しいと考えていることです。

1. 「LGBTQ+」って知ってはる〜？

ところで、みなさんは「LGBTQ+」や「SOGI」という言葉を聞いたことがありますか？

「LGBTQ+」とは、L（レズビアン：女性の同性愛者）・G（ゲイ：男性の同性愛者）・B（バイセクシャル：男女の両性愛者）・T（トランスジェンダー：「出生時の性別は女性で性自認は男性」など、生まれた時に割り当てられる性別と自身で認識している性別が異なる人）・Q（クィア、クエスチョニング：性的指向や性自認が定まっていなかったり決めていない人など）の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ（性的少数者）の総称として使われています。「SOGI」とは、SO（セクシュアルオリエンテーション：性的指向）・GI（ジェンダーアイデンティティ：性自認）の頭文字をとった言葉で、自分自身の持つ恋愛感情や性的な関心の対象となる性別や自分自身で認識している自身の性別を説明する際に使われています。そのため、「SOGI」は「全ての人」が持っているものであって、「LGBTQ+」はこの「SOGI」の中に含まれているのです。（詳細は図を参照）



自分のことを男の子だと認識していて、恋愛対象は男の子。

生まれた時の性別は男の子で、自分のことは女の子だと認識していて、恋愛対象は男の子。

自分のことを女の子だとも男の子だとも認識していないけど、恋愛対象は男の子も女の子も。など、戸籍上の性別・性自認・性的指向の組み合わせを挙げると、ここにはとても書ききれないほど沢山あります。どれが正しくて間違っているということではなく、「性」とは、それほどに多様なのだということです。

2.「カラフル」ってどんなコミュニティ？

「カラフル」は、京都を拠点とした「誰もが自分らしくあれる社会」の実現を目指すコミュニティ団体。運営メンバーは、ゲイ、ヘテロセクシュアル、トランスジェンダーなど様々なセクシャリティの7名です。（2022年3月現在）

そんな私たちのモットーは、『京都をもっとカラフルに、多様性を認め合うまちへ』メンバー同士でお互いの多様な性質を受け入れ・理解しあいながら、可視化・共存・発信を軸とし「LGBTQ+」に焦点を当てた活動を行っています。

3.些細な会話を大切に。私たちの活動について

「LGBTQ+の存在をより身近に感じてほしい」×「自分たちが住む京都鴨川をきれいにしたい」京都に新たな風を吹かせようと始めた活動は、鴨川沿道でのゴミ拾い。毎月第二日曜日に、三条から五条にかけてゴミ拾いを行なっています。

様々なセクシュアリティの人々が集うこの活動では、LGBTQ+に関する話題の他にも、ジェンダー全般に関する話、自身が属するコミュニティの話、日常のたわいもない話をすることもしばしば。なにげない会話が参加者同士で関心を持ちあうきっかけとなり、「共存」への第一歩を踏み出しているように感じています。



LGBTQ+を象徴するレインボーフラッグ。LGBTQ+フレンドリーの目印として、このフラッグを掲げているお店などもあります。



ゴミ拾い中の様子。「どんな活動をされているんですか？」と声をかけていただくことも増えました！嬉しい。涙

また、マイノリティの「可視化」と「発信」のため、私たちが身にまとっているのはLGBTQ+の象徴カラーであるレインボーカラーのアイテム。「ひとりじゃないよ、仲間がココにいるよ」という、応援メッセージを込めています。

4.プライド撮影会！2020年より新たな試みを始動

2020年11月には、京都鴨川にて「プライド撮影会」を初開催。LGBTQ+の象徴カラーであるレインボーグッズを身につけ、一人ひとりのメッセージとともに、それぞれの想いをカタチにしました。背景には、LGBTQ+やアライ（LGBTQ+に関心を持ち、寄り添う人たち）の仲間が京都にも沢山いるということや性別、年齢、国籍を超えた人と人のつながりを感じてほしいという思いがあります。

2021年11月には第二回目となる撮影会を実施し、10代から60代まで幅広い年齢層の52名が集まりました。

「自分らしく」今年はそんなメッセージが多くみられ、性別や年齢などの属性を超えて、感性としての「個性」を大切にすることがますますアクティブになっているように感じています。



2021年のレインボー撮影会で寄せられたメッセージの一部。

5. 「誰もが自分らしくいられる場づくりを」メンバーの想いとは？

ところで「カラフル」が本格的な活動を始めたのは、2019年5月。

自身がトランスジェンダーであるリーダーのゆうきが「自分と同じセクシュアリティではない人とも、もっと関わっていきたい」と、LGBTQ+について気軽に話す会を企画したことからスタートしました。

背景には、ゆうきが学生時代アメリカ留学をきっかけに、いろんなセクシュアリティの人と出会い交流する中で「なりたい自分像」と向き合えた過去があり、「京都」においても、社会の中で、自分らしくいてもいいと思える場を作りたいという想いがありました。

「相手を100%理解することはできないけど、相手を知ることから1%の想像ができ、行動につながる、無意識を意識に変えることができる。相手は学びを与えてくれる存在である。生きる中で、人と比べて相手や自分自身を否定するのではなく、お互い違っていい、そしてまた違いを知ることが楽しいと感じる心を育てながら生きられたら、考えはより柔軟に、心はより豊かになると思う。」できる限り、ありのままでもいい居心地がいいと思える人たちと、より身近に繋がれる環境の中で生きていきたいと思っています。

また、初期立ち上げメンバーのなみは「LGBTQ+の当事者か非当事者かという点にこだわらず、ジェンダーについて思うことを気軽に話せる人と出会いたい」という思いから、当時ゆうきが企画した会に参加。それまでLGBTQ+や性的マイノリティという言葉は聞いたことはあったものの、深い知識はありませんでした。しかし、会に参加していくうちに、「『性』のことって、みんなに関係する話題で人ごとではないんやなあって。性に対する理解が深まることで、自分自身も以前よりも『多様性』を意識して人と接することができるようになってきた」と、メンバーとしてカラフルに加わることを決意。

そんなメンバーの思いが集まり、カラフルでは、特定の当事者だけが集まる場ではなく、いろんなセクシュアリティの人が交わりながら、安心して心地よくたのしく、そして時にはまじめに語れる場づくりを常に目指しています。



ゴミ拾い後も白熱しているジェンダートークの様子。(2020年1月12日撮影)

6.みんな違ってみんなカラフル。繋がりあうコミュニティを
「カラフルというコミュニティがあってよかった」

私たち自身が活動をする中で、自身のセクシュアリティやジェンダー、仕事や恋愛そして人生について、深く話し合える仲間に出会えた事は、何よりの宝物だと思っています。

コミュニティとは、安心できる場所であり、自分自身が強くいられる場所。

助け合える仲間が近くにいるからこそ一人では勇気が出ないことにもチャレンジできるし、人を知ることによって視野を広げることにもできる。「人と繋がること」は自分の人生をより豊かに生きるためのきっかけとなるのではないのでしょうか。

またコミュニティには様々なバックグラウンドを持った人々が集まります。

そんな時、一人ひとりの「らしさ」を尊重することはサステイナブルなコミュニティづくりに欠かせないことだと私たちは考えています。

「らしさ」とは、一人ひとりが持つカラー。

だからこそ、『自分らしさ』を大切にできたら、人と人が関わる上で『違い』が障壁になることはなく、みんなが心地よくハッピーに過ごせる社会になるのではないかと思います。

「多様な人びとが繋がる場」は想像以上におもしろい。



カラフルは、
毎月第2日曜日の午後1時～午後3時の間、鴨川河川敷三条から五条にかけてゴミ拾いを開催しています。
参加お申し込みやお問い合わせは以下メールアドレスまで♪
その他最新イベント情報や、これまでの活動の様子はインスタグラムにてご確認くださいませ。

公式HP
参加申し込みやお問い合わせはこちらをスキャン

Instagram
最新の情報や活動の様はこちらをスキャン




Email: info@colorful-kyoto.com
Instagram: colorful_kyoto

ふと疑問に思うこと、あなたの考えや悩みごと、LGBTQ+ってなに？などなど、どんな話題でもウェルカムなカラフル。日曜のお昼にゴミ拾いをしながら、私たちと気軽にしゃべりませんか？

文：松岡那実（カラフル）

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分